



まだまだ寒い日が続きます。インフルエンザが流行り始めたので、予防を心がけましょう。

県西農林事務所 経営・普及部門  
(筑西地域農業改良普及センター) 発行  
Tel : 0296(24)9206 Fax : 0296(24)6979

### 筑西地域プロジェクト実績発表会を開催



1月15日、筑西合同庁舎大会議室において、筑西地域プロジェクト実績発表会を開催し、管内農業後継者クラブ員や関係機関担当者など72名が参加しました。

当日は、筑西4Hクラブ下館支部・筑西4Hクラブ関城支部・協和園芸4Hクラブ・大地のめぐみの各代表者によるプロジェクト活動の実績発表を行ったほか、真壁高等学校農業科の生徒による特別発表と、有限会社栗原農園の栗原昌則氏による「法人化と雇用の取組について」と題した講演会を行いました。



プロジェクト実績発表では、熱のこもった発表と活発な質疑応答が行われ、農業者代表等による審査の結果、筑西4Hクラブ下館支部の水越優太さんが最優秀賞を獲得しました。水越さんは、筑西地域代表として、1月31日(水)に行われる県のプロジェクト実績発表会に出場します。なお、水越さんの発表内容は裏面に記載しておりますので、ご覧下さい。

### 発表課題名

#### <最優秀賞>

「水稻栽培における流し込み施肥の効果検討」筑西4Hクラブ下館支部 水越優太さん

#### <優秀賞>

「収益増を目指したナシ品種構成の検討」筑西4Hクラブ関城支部 鈴木直生さん

「抑制トマトにおけるコナジラミ防除体系の検討」協和園芸4Hクラブ 吉原裕貴さん

「魅力度最下位の茨城県～農作物はどう思われている?～」大地のめぐみ 廣瀬敦士さん



### ナシ担い手対策研修会を開催



12月12日、筑西合同庁舎大会議室において担い手対策研修会を開催し、県西地域のナシ生産者や関係機関59名が参加しました。(有)信州うえだファームの常務取締役である船田氏を講師にお招きし、果樹の担い手育成・定着のための研修や、第三者継承の取組についてお話いただきました。独立時の支援内容や第三者継承の課題などについて、活発な意見交換も行われ、生産者が産地の未来を考える良い研修会となりました。



今後、普及センターでは担い手確保・育成のために支援を続けていきます。

## 県西地域の青年農業士が合同研修会を開催！

12月21日、県西地域の青年農業士21名が参加し、合同研修会を開催しました。

(有)ソメノグリーンファームの農場長である片岡孝介氏を講師として招き、「働きやすい環境とやりがいづくりについて」と題して講演をいただきました。講演では、「長く働いてもらうには信頼関係の構築が重要。先進地研修や篤農家との交流が従業員のヤル気を引き出してくれている。」等、雇用を行う上で重要な点についてのアドバイスをいただきました。また、採用も担当している片岡氏に対して、「どういった採用基準を定めているか？」等の質問が出され、青年農業士が経営者として直面している課題をのりこえていくヒントを共有できた研修会となりました。

## 収入保険制度が平成31年1月からスタートします！

収入保険制度は、品目の枠にとらわれず、自然災害による収量減少だけでなく、価格低下なども含めた収入減少を補てんする新しい仕組みです。これまでの農業共済などとは選択して加入することになります。

この制度は青色申告を行っている農業者が対象となりますので、これから青色申告に取り組む場合には、平成30年3月15日までに税務署に青色申告承認申請を行い、平成30年分の青色申告の実績ができれば、平成32年1月から加入することができます。青色申告には、正規の複式簿記のほか、現金出納帳等を整備した簡易な方式もあります。

なお、制度の詳細については、最寄りの農業共済組合にお問い合わせください。



## H29年度筑西地域プロジェクト実績発表会 最優秀賞！

### 水稻栽培における流し込み施肥の効果検討 ～筑西4Hクラブ下館支部 水越優太さん～

#### <発表要旨>

私は、水稻作の施肥コスト低減と収量向上のために、豚ぶん堆肥の施用と基肥+追肥体系での作付けを実施している。これまでのプロジェクト活動において、基肥の減肥と追肥の増量が有効という結果が得られた。今回のプロジェクトでは、追肥の労務負荷軽減のために、「あさひの夢」において、流し込み施肥の効果を実証することにした。

その結果、追肥の流し込み施肥は、区画が大きいほ場(45a)においては施肥ムラが発生したものの、動力散布機追肥の慣行区と比較しても収量に差はなく、肥料費と労働費の削減により、施肥コストを1,090円/10a削減できることが分かった。さらに、暑い中での作業を軽減することができる点で、数値に現れる以上に効果的であった。

次年度以降も基肥と追肥の施肥量について検討し、さらに今後想定される経営規模拡大に対応するため、収量コンバイン等のICTを導入し、収量の増加や作業効率化を図り、安定した経営基盤の確立を目指したい。



### 普及員のひとりごと ～岩瀬明人～

この職場は、新採の時に6年、13年ぶりに戻ってきて4年がたとうとしています。新採当時青年農業士だった方が農業経営士に、ランドセルを背負った小学生が青年農業士へと農家の方の成長そして、繋がっていく姿をみて農業のもつ新たな魅力を感じています。

### 編集後記

プロジェクト発表会での各4Hクラブ員と真壁高校の生徒の発表は、どれも素晴らしい内容でした。発表者の皆さまはお疲れ様でした。今瀬

皆さまからのご意見・情報をお待ちしております。